

目的

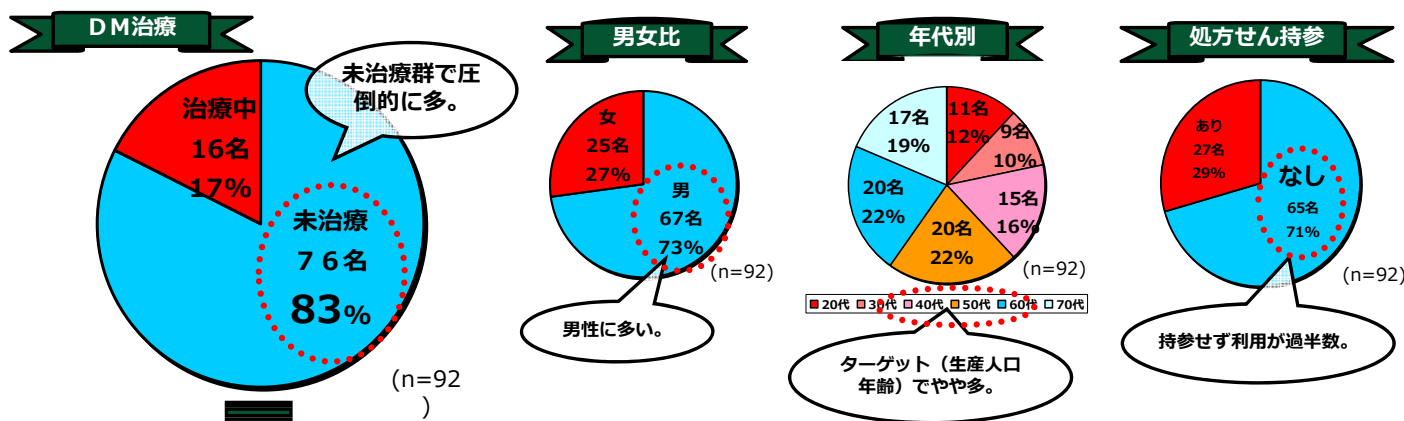
糖尿病予備群の増加が危惧される現代において、セルフメディケーションの一環として薬局がその発症予防に携わることは、薬剤師の職能拡大を目指す上で、不可欠である。2014年4月、厚生労働省により臨床検査技師法の一部改正が告示され、届出により、自己採血による簡易検査が可能となった。そこで、生産年齢人口の多い神田、大手町エリアに位置する当社店舗にて、検体測定室を開設し、HbA1c測定を実施することで、利用者分布の調査から、今後の課題について検討、考察した。

方法

2014年6月1日～2015年4月30日の間で、検体測定室ガイドラインに基づき、自己採血によるHbA1c測定を実施した。測定機器はシーメンス社のDCAバンデージを用いた。

結果

利用者数は、**92名**、**166件**。うち、継続利用者は、**26.1%**であった。その中には、患者自身の生活習慣の見直しなどにより**HbA1c値減少例**も認められた。



19名/76名、25%に受診勧奨。
(※未治療かつHbA1c値>6.2)

- ・DM治療していない患者にニーズあり。
- ・幅広い年齢層が多く利用。
- ・患者層、生産年齢と一致している。
- ・近隣住民、就業者が薬局を利用するキッカケとなっている。

利用者の声

- ① 60代男性 治療中
病院で採血してきたが、医師から結果を聞く前に心の準備ができる。高かったときは気をつける。
※最多の11回利用 (現在も記録更新中)。
- ② 40代男性 未治療
検体測定室を利用した上司から毎月ここで測って結果を持って帰るように指示された。
数値を見ることで、血糖値を意識するようになった。
- ③ 50代男性 未治療
健康診断で医師に注意されてから筋トレをしたり、食事に気をつけるようになった。結果的には下がっていたので、自分の取り組みに対する成果、経過がわかって嬉しい。



考察

直近の国民健康・栄養調査 (厚生労働省) によると、「糖尿病が強く疑われる者」及び「糖尿病の可能性が否定できない者」を合わせた割合は、男性**25.9%**、女性**18.6%**と男性に多く、年代別では、**50代から70代**に多い。本調査でも同様に、男女比では**男性**、年代別では**50代から70代**に多いという結果が得られ、利用者分布が、上記調査と類似していることが観えた。そして、**糖尿病未治療の利用者が8割**という結果は、検体測定室が糖尿病発症の**早期発見、予防**に対して、大きく貢献する可能性があることを示唆している。また、薬局が医療提供施設として検体測定室を実施することが、糖尿病のみならず、他疾患の早期発見、予防に携わるために重要である。